

ローレンス・フィンク ブラックロック・インク会長兼CEOと  
フォローアップ会議メンバーとの意見交換会（平成31年2月18日実施）

本年2月18日（月）、フィンク氏とフォローアップ会議メンバーとの意見交換会が開催され、最初にフィンク氏より長期主義、企業の社会的役割及び企業統治に関するプレゼンテーションが行われた。主な発言概要は以下のとおり。

【企業の社会的な役割】

- 世界情勢が不安定化する中、企業はありとあらゆる社会において、その構成要素としてかつてないほど大きな役割が求められており、株主だけでなく、顧客・従業員・社会・コミュニティに対しても責任を負っている。

【対話の重要性】

- 投資先企業との建設的な対話は、企業の経営陣に対して我々の見解を伝え、企業の戦略を理解する手段として重要である。我々は顧客のためにのみ投資を行い、我々が運用する資産の大部分はインデックス・ファンドに組み込まれている。このため我々は、インデックス・ファンドに入っている企業の株式を売却できない。従って、企業と継続的な対話を持つことが我々の顧客のために良い結果をもたらすと考える。

【企業理念・長期的戦略の重要性】

- 投資先企業の経営トップに対し、7年前のレターより長期的視点を持つことの必要性を訴えている。これは、我々の顧客利益の最大化についての責任を持つ受託者として行っており、昨年のレターより、「企業の目的（PURPOSE）について考えるべきではありませんか」と問いかけている。
- 企業は、高い透明性を確保することで、長期的な株主との繋がりを強化し、自身の経営に対する支持を取り付けることができ、短期主義を阻止できる。
- 企業理念は収益を代替するわけではないが、事実として企業理念と収益は密接に関わる。企業理念を明らかにすることは企業が自社の価値を株主、従業員及び社会に向かって表現することの一助となる。
- 現在ミレニアル世代が世界の労働者の35%を占めており、彼らは企業理念に関心をもつ。企業理念を表現することは、優秀な人材の確保にとって重要であり、企業の持続可能な利益につながる。
- また、長期的な戦略が、取締役会において適切に議論され検証されることへの期待も述べている。

【ガバナンス関係】

- 日本企業はその活力を維持するために、ガバナンスの水準を高めなければならない。ガバナンス強化の鍵は、各企業が独立性を有し、多様性に富んだ取締役会を有することであり、それが形式的ではなく実質的な監督を効かせるようになるべきだ。

- 経営トップのサクセッション・プランニングの検討にあたっては、あらゆる面でのダイバーシティは重要だが、とりわけ思考のダイバーシティについて留意することを企業経営者に促したい。経営陣全員が同じバックグラウンドや同じ分野での強みを有する者で構成されないようにすることが重要である。

#### 【ESGの重要性】

- 我々は、ESG（環境、社会及びガバナンス）は長期的戦略で欠くことのできない要素の一つであると考えており、これら環境、社会及び統治に関する事項は我々の顧客の投資に重大な影響を及ぼしうると長らく考えてきた。
- ESGは今後より良いデータが収集されることに伴って投資の要素としての重要性が高まる。ESGに係るデータがセクター内で比較可能になることが肝要である。

プレゼンテーションの後、メンバーより議決権行使助言会社、ESG、個人投資家、種類株式、Common Ownership、資本効率、利益相反等に係る質問があった。

（以上）